

# ふかまちのまど

第四号  
七十年九月  
十月十日

## 教育現場で思うこと

成末肇士

私たちが教育する人間も社会全体がもう一度、哲学的にも基本にたかえって「善さ」について考えてみる必要があると思えます。どんな子どもも、すべての大人も、人間として「善く」生きようとしていることは間違いないことです。

現代の不幸は、功利主義の支配だけでなく、さらにそれが科学、技術の万能主義と結びついたことにあります。

科学、技術は確かに物質的な豊かさをもたらしました。しかし、功利主義と結びついた時から、心の問題や、人間の本来の追求はなおざりにされたのです。そして、公害から始まりいじめ、不登校、おやし狩り、援助交際、戦争、地球温暖化と、次々と新しい災がおそいかかっているのが現代です。

技術の基礎は物理学です。物理では、一つの数式ですべてを書き表そうとします。天体の運行も、リングが落ちるのも、同じ式で表したのがニュートンの偉大なところでした。

自然は見かけがいろいろでも同質で、一つの数式で書き表すことができ、違いは量だけだとするのが物理学の方法です。先に述べた功利原理と結びつくことは容易に納得できると思いません。

お金について考えてみましょう



物の価値はいろいろで、単純な比較はできないはずですが、それを金といふ一つの物差しで計って、量の多い少ないで価値の優劣を決めるのです。

世の中すべてがお金だと考えている人は、物理的思考が最も正しいと考える人だと言うことになりません。

援助交際する少女の気持ちも同じでしょう。入試の偏差値もそうです。人間の才能は質的にも違うはずですが、これを同質とみなして数値化し、その量の違いで優劣を判断します。客観的だとして、みんなが納得するのです。

しかし、一つだけの物差しで全ての物を数値化したら、人間の能力を数値化するのとは、どこかおかしいと思いませんか。人間の心や気持ちを一つの物差しで計ることに無理があると思えます。

人間には、価値観はいろいろあって、物を見る物差しをいろいろ持っている。このように考えてみて下さい。

資源が残りに少なくなった狭い地球で、色々な生物と共存しなくては生きて行けない人間にとつて、いろいろな価値観を認め、いろいろな物差しで計る方が、より豊かで、善いと思いませんか。そのためにも、いわゆる感性が問題になると思えます。

## 深町の歴史余話(二)

高崎壽郎

苗字について(1)

慶応三(一八七七年)十月、將軍徳川慶喜は、大政を奉還し、政治は幕府体制から明治政府へ移った。新政府は、西欧流の新しい国家を造らねばと考へ、次のような政策を矢継早に打ち出した。即ち

- ・明治二(一八七六年) 版籍奉還
- ・明治四(一八七九年) 廃藩置県、戸籍法発布
- ・身分制廃止、新式郵便制度採用
- ・明治五(一八七九年) 戸籍法実施、学制頒布
- ・明治六(一八七九年) 太陽暦採用
- ・明治六(一八七九年) 地租改正条令公布

また、中世以来農民や商業者には、苗字の使用は禁止されていたが、明治二(一八七五年)九月、「平民に苗字の使用を許す」とを明らかにした。これにより、誰でも自由に好きな苗字を名の

## シベリヤ抑留記(終)

為清 謹

病気に罹り帰国へ

昭和二十一年四月二十五日、賜チフスに罹り入院。病院ではソ連の女医さんがいて、子どもが持つて遊ぶおもちゃのラッパの様な聴診器で診てもらった。院内では食事が良かったので助かった。

七月頃になると白夜が続ぎ、朝は午前三時には太陽が登り、夜は十時を過ぎてまだまだ明るい。七月二十五日、興南へ療養のため、病院から十二名汽車に乗ったが同乗した人数は二、三百名位はいたと思う。

汽車もウラジオポストで下車し船待ちをする時、みんなの背中にシヤツの白い色が見えなくなる程ハエが止まっていた光景を思い出す。



船は興南港に入港し、もとい興南収容所で療養する。そこで健康を回復した者は又、シベリヤに向けて乗船させられた。中には、六年間もシベリヤで抑留生活を送った人もいた。

興南では時々、港の船積みと近くの山へ薪を取りに行くのが作業だった。

昭和二十一年十二月十五日、日本船が入港しそれに乗船。二十一日佐世保に上陸した。

私は病気が幸いしてか、早い帰国の運びとなったのはなんと皮肉。とに角帰国できたのである。

・軍隊 三百五十日  
・捕虜 四百八十五日  
改めて永眠した戦友たちの冥福を祈り、ペンを擱きたい。

成末(鳴瀬、成瀬) 頼定(頼貞) 大谷(大谷) 村上(村上山) 山垣内(山垣内) 秋永(秋永) 国安(国安) 金堀(金堀) 網掛(網掛) 迫(迫) 迫谷(迫谷) カシヤ(カシヤ) 射場(射場) 上射場(上射場) 射場(射場) である。(一) 鑑考、頼定、大谷姓は今はない。

職業型と思われるのに、幸谷(紺屋)がある。自給自足の世の中だったので、染物の紺屋は村で重要な仕事だった。

我が家の苗字にはどのような由来があるか、調べられるのも一興。



## 十二月町内各種団体行事予定

- ◆小学校(幼)
  - ・集金日(幼) 九日
  - ・貯金日・体重測定(幼) 十日
  - ・避難訓練 十一日
  - ・参観日・発表会 十二日
  - ・体重測定(低) 十五日
  - ・体重測定(高)・卒業式 十六日
  - ・弁当終わり(幼) 十八日
  - ・誕生会・参上(幼) 十九日
  - ・給食終了 二十日
  - ・終業式 二十四日
- ◆消防団
  - ・年末警戒 二七～三一日
  - ◆女性会
    - ・親睦会上留 中留 下留
- ◆新しいお友達がきました
  - ☆長皇まるみちゃん 四年生

## 知事・市長投票率(深町地区)

分類	有権者数	投票者数	投票率%
知事	700	265	30.9
市長	701	265	30.9

## 如水館だより

- ★女子 全国大会へあと一歩  
十一月二日、第十四回県高校女子駅伝競争大会で、近大福山に次いで二着でゴールイン。三十九秒差。
- 一・二年ばかりで前回の七位から一挙二位に大躍進。

## ★中国大会出場(県大会で入賞した)

- ・駅伝 (男・女)
- ・弓道 (男)
- ・バレー (男・女)

## ★県高校野球一年生大会

如水館 準優勝

## 展 望 席

十月、淡路島にケンシユウ?で行き、蓮台山 八浄寺で「開運福寿の秘伝」を百円で求めた。高いつもりで低いのは教養低いつもりで高いのは気位 二、深いつもりで浅いのは知識 浅いつもりで深いのは欲。以下略。

このテの諺は、事業所や家庭に掲げてあるのをよく見受ける。簡にして要を得た人生訓である。▼人間、年を重ねると長い文章は読みづらくなり、途中投げをする。▼本も、まえがき、あとがきに目次を読んで後は「つん読」。新聞も「下から読む」という説に接し実行してみるが面白い。特に広告欄は時代の凝縮判とも言えようか。勿論これを何処まで信ずるか、読者本人のバランスの問題だが、安易な販売テクニクにひっかかり自らの不明を恥じることも。▼本も初めから終わりまで熟読はしんどい。しかし、数行の文に心の目を開かせるものもある。「上」に立つ者には、発信と受信の二つの能力が求められる。どちらが欠けても失格だ。いわんや、発信能力のない指導者ほど魅力のないものはない。今は「沈黙は金」の時代でないことだけは確かである。